第１　基本方針

本県の茶業は、平坦で、比較的経営規模が大きい球磨、菊池地域などと、傾斜地で経営規模が小さい上益城、鹿本、八代、芦北地域など、県内の北部から南部まで県下全域の中山間地域に茶産地が分散している。しかし、中山間地域における重要な作目であることに変わりはなく、これらの地域で蒸製玉緑茶、煎茶、釜炒り茶の三茶種が生産されている。

茶園面積は、昭和 50 年代をピークに年々減少しているが、全国有数の茶生産県として重要な位置を占めている。近年、「さえみどり」などへの改植が進んでいるが、依然として「やぶきた」が茶園面積の７割強を占めている。また、樹齢 30 年を経過した茶園が３割を超えるなど、「やぶきた」偏重による作業の集中化、茶樹の高樹齢化による生産性の低下などが問題となっている。さらに、販売戦略としてくまもと茶のブランド力の強化が必要となっている。

一方､需要低迷と流通状況の変化などにより､茶価は平成 11 年をピークに減少していたが、近年は回復しつつあるものの依然として低水準である。

さらに、燃料及び生産資材の価格上昇は生産者の経営を圧迫しており、生産者の減少が進むとともに、後継者不足による担い手の高齢化も進行している。

このような状況の中、本県茶業を維持していくために、新しい需要への対応や新商品開発による「稼げるお茶づくり」のための試験研究に重点的に取り組み、茶業農家の収益向上に寄与する。

第２　重要研究事項

１　くまもと茶のブランド力強化に向けた対応

県産茶のブランド力強化に対応するためには、販売促進、品質向上はもとより、熊本県オリジナル品種が重要であるため、育成と栽培管理・製造技術を開発する。

２　消費者の嗜好に対応した多様な商品づくりへの対応

稼げる茶業経営を行うためには、消費者の嗜好の多様化に対応した特徴ある商品づくりや付加価値を高めた商品づくりが必要であるため、近年、国内外で需要が高まっている抹茶の高品質･低コスト生産技術や香りを特徴とした商品開発に向けた生産技術を確立する。

３　収益向上のための生産コスト削減への対応

生産者の経営が厳しい状況のなか、収益を確保するためには、リーフ茶だけでなく、ドリンク原料茶、ティーバッグ茶などの低価格茶への対応が必要となるため、生産コストを削減する必要があり、効率的な栽培・加工技術を開発する。

第3 試験研究課題一覧

【茶業研究所】

部門	大課題	中課題	予算 金額	予算 区分	小課題	試験期間
茶業	1. くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 生産性・品質に優れる新品種の選抜・育成	690	県単	① オリジナル品種の栽培管理・製造技術の開発 ② 耐寒性の高い早生系統の選抜・育成	H29～H31 H29～H31
		(2) 茶の系統適応性検定	88	外部資金	① 茶系統適応性検定試験	H29～H31
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 茶の病害虫予察	農業技術課	令達	① 病害虫発生予察調査	S40～継続
		組替 （2）稼げるお茶づくりのための茶生産技術の開発	2,160	県単	① 既存機械を活用した新たな製造技術の開発 ② ハイブリッド製茶ラインを活用した緑茶生産技術の開発 新規 ③ 機能性成分に着目した新たな茶生産技術の開発	H29～H31 H30～H32 H31～H33

注) 新規: 本年度から新たに取り組む課題　　組替: 課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

延長: 課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題　　短縮: 課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題